

用語の解説

行	用語	頁	解説
あ行	陰樹	33、39、46	幼樹のところに日陰でも生育できる樹木。イチイなど。
	園路	2、8、22、39、46	公園や庭園の中の道。
か行	外来種	6、16、17、18、 19、21、33、34、 39、40、41、42、 45、46、47	もともと生息していなかった地域に、人の手で他の地域から入ってきた動植物。 ※北海道ブルーリスト参照。
	階層構造	30	層状の重なりを持つ構造。森林などでは高さの違う植物からなる群落内の葉の分布に、垂直的に何層かの密な層を生じているように見える場合が多い。一般に高木層、低木層、草本層、蘚苔(せんたい)層に分けられるが、階層が何層になるかとか、どれだけはっきり区別できるかどうかは森林によって異なる。
	攪乱	12、34、41、47	生態系・群集・あるいは個体群の構造を乱し、資源・基質の利用可能量・物理環境を変えるような、顕著な出来事。
	活着	12、31、37、42、 44	移植などした植物が、根づいて生長しはじめること。
	観察密度	12	「帯広の森小動物生息状況調査」では、調査距離あたりの観察個体数を観察密度として用いている。
	緩衝帯	32、33、35、38、 40、42	保護地域外からの影響を緩和するための緩衝地域のこと。保護地域を保全するためには、その周辺に緩衝帯を設定して人間活動の影響などが直接核心部に及ばないようにすることが重要とされている。
	間伐	8、9、10、11、16、 18、19、25、31、 34、35、37、40、 41、42、44、47、 48、50、51	森林において樹木の健全な発育を助けるために一部の木を切ること。樹木が生長するに従って森林の空間は窮屈になり、個々の木の生長は阻害され、個体間に優劣が生じてくる。そこで劣勢な木や欠点のある木、また立ち木の過密など、全体的な見地から切ったほうがよいと思われる木を切って、残った木の健全な生長と生産物の質的な向上をはかる。
	灌木	32、33、38、40	「低木(ていぼく)」に同じ。⇔ 喬木(きょうぼく)
	ギャップ	32、38、45	樹冠から林床まで光が差し込む隙間。
	郷土種	18	ある地域に本来的に生育する植物種。
	郷土の森	22、23、30、36、 43	帯広の開拓前の森を指す。
	極相	15	生物群集、特に植物群落が、遷移の過程を経て、その地域の環境に適合する、長期にわたって安定な構成をもつ群集に到達したときの状態。クライマックス。安定期。
	グリーンベルト	3	都市計画で、都市の環境を守るために緑地とした地帯。緑地帯。
	景観	2、22、23、26、 27、28、35、36、 39、42、43、46、 47	①けしき。ながめ。特に、すぐれたけしき。②人間の視覚によってとらえられる地表面の認識像。山川・植物などの自然景観と、耕地・交通路・市街地などの文化景観に分けられる。
	交雑	19	いりまじること。遺伝的に異なる系統・品種などの間で交配を行うこと。
	高木	35、42	丈の高い木。樹木のうち、おおよそ丈が人の身長より高く、一本の太い主幹が明瞭であるものをいうが、林業では高さ4～5メートルで、構造材が採取できるものをいう。ケヤキ・マツなど。喬木(きょうぼく)。
	枯損	31、32、34、37、 38、41、44、45、 47	植物が枯れてそこなわれること。
	混交林	5	複数の樹種から構成される森林で、針葉樹と広葉樹とが混生している森林は「針広混交林」と呼ばれる。
	さ行	在来種	17、19
自生		5	植物が人の保護を受けずにある地域にもとから繁殖し生き続けていること。
実播		6	種子をまいて生育させること。
修景		5	①大きな景色。②都市計画や公園建設で、自然景観を破壊しないよう整備すること。修景保存。
樹冠		9、31、34、37、 41、44、47	樹木の上部の、枝・葉の茂っている部分。
樹洞営巣性鳥類		14	樹洞(樹木、多くは幹の中に生じた空間)を利用して繁殖を行う鳥類のこと。
純林		5、22	樹冠が唯一種の樹林からなる森林。単純林。
	植生	4、7、10、13、17、 19、30、31、32、 33、34、37、38、 39、40、41、42、 44、45、46、47	ある場所に生育している植物の集団。

行	用語	頁	解説
さ行	針葉樹	5、9、12、13、16、19	葉が針のように細長いマツやスギなどの裸子植物球果植物門の樹木のこと。広葉樹の対義語。常緑性の常緑針葉樹と落葉性の落葉針葉樹がある。
	森林性鳥類	14	森林(高木層を上層にさまざまな階層構造で構成された植生)をおもな繁殖地・生息地とする鳥類。
	水生昆虫	15	一生または幼虫期を水中または水面で生活する昆虫。水辺にすむ昆虫を含めることもある。ゲンゴロウ・タガメ・トンボ・アメンボなど。
	生物指標	15	生物の状況からその環境を類推して示すこと。
	生物多様性	2、23、34、36、41	生命の豊かさを包括的に表した広い概念で、一般的に生態系の多様性、種における多様性、遺伝子の多様性という3つの階層で多様性を捉えている。生物がみせる空間的な広がりがりや変化のみならず、生命の進化・絶滅という時間軸上のダイナミックな変化を包含する幅広い概念。
	成木	6	十分に成長した樹木。⇨幼木
	遷移	22、30、33、35、39、46	一定の地域の植物群落が、それ自身の作り出す環境の推移によって他の種類へと交代し、最終的には安定した極相へと変化していくこと。
	潜在植生 (潜在自然植生)	30	ある土地の現存植生が代償植生(人為的干渉が常に加えられることによって持続している植生)である場合、それを持続させている人為的干渉が全く停止されたとき、その土地が支えることのできる自然植生をいう。
	草原性鳥類	14	草原(草本植物を主とする群落)をおもな繁殖地・生息地とする鳥類。
	草本	16、17、21、31、33、37、39、44、46、35、42	木部があまり発達せず地上部が一年で枯れる植物の総称。草(くさ)。⇨木本(もくほん)
た行	地形	4	地表の形態。高低・起伏などのありさま。海水面上の陸上地形、海水面下の海底地形に大別する。地貌。
	地質	4	地面より下(生物起源の土壌を除く)の岩石・地層の性質・状態・種類などを指す。
	稚樹	16、17	若木。
	低木	8、40	通常、ヒトの身長以下の高さの樹木をいう。主幹と枝との区別がはっきりせず、根もとから多くの枝に分かれているものが多い。ノリウツギ・エゾニワトコなど。灌木(かんぼく)。
	天然更新	2、21、30、34、41、47、55	植林など人工によらずに、自然に落ちた種子や根株からの芽を育ててゆく造林法。天然造林。
	動物相	4	ある地域にすむ動物の全種類。昆虫相・鳥相などに分けることもある。ファウナ。
	土壌	4、21、27、40、42	地球上の陸地の表面を覆っている生物活動の影響を受けた物質層のことである。一般には土(つち)とも呼ばれる。
は行	被害地	32、38、45	災害によって損害を受けた土地。被災地。
	ひこばえ	8	切り株や木の根元から出る若芽。余蘖(よげつ)。
	風倒木	31、37、40、44	強風を受けて倒れた立ち木。
	腐葉土	51	落ち葉が積もって腐った土。養分に富み、空気の流通・排水が良いので園芸に用いる。
	BECK-TSUDAの方法	15	生物学者であるベック氏が1955年に提唱した水生生物を利用した汚濁指標。
	放逐	15	ここでは、その場所に生息していなかった動物をとき放つことをさす。
	捕獲調査	13	個体を捕獲して行う調査。野外の目視調査だけでは記録し得ない分類、体格、移動などを明らかにすることが出来る。
	牧草種	16、18	家畜の飼料として栽培される草の種類。大部分はイネ科(イタリアンライグラス・チモシーなど)とマメ科(クローバー・アルファルファなど)に属する。
ほだ木	51	シイタケを栽培するときに、種菌をつける原木。シイ・クリ・クヌギなどの幹を用いる。	
や行	陽樹	33、39、46	陽光が十分に当たる場所で生育する樹木。カシワ・シラカンバなど。
	幼苗	6	若苗、早苗。
ら行	裸地	31、32、37、38、44、45	植物や建築物などに覆われておらず、土がむきだしになっている土地のこと。
	リター層	16	森林において地表面に落ちたままで、まだ土壌生物によってほとんど分解されていない葉・枝・果実・樹皮・倒木など、すなわち落葉落枝類および動物の糞などのデトリタスの堆積した層のこと。
	林冠	16、17	樹冠がすき間なく接して連続している状態。
	林床	10、12、16、18、19、22、30、31、32、33、34、35、37、38、39、41、42、44、45、46、47	森林の中の地表面。太陽光線が届きにくく暗いので、そこに適応した植物が生育する。

■用語の解説作成における引用・参考文献など

引用・参考文献	著者	発行年月日
朝日新聞 夕刊 環境		平成21年11月19日
広辞苑第六版	新村 出	平成20年1月11日
世界大百科事典第二版	岡野屋 正男	平成10年3月6日
大辞林第三版	松村 明	平成18年10月27日
ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典		
生態学事典	巖佐 庸/松本 忠夫/菊沢 喜八郎/日本生態学会【編】	平成15年6月
木材・樹木用語辞典	木材・樹木用語研究会【編】	平成16年6月
森林総合研究所北海道支所研究レポート No. 71	松岡 茂	
環境アセスメント用語集	環境省総合環境政策局環境影響評価課	
丹後広域振興局HP	丹後広域振興局建設部 丹後土木事務所	
EICネット	EICネット事務局	
ウィクショナリー		
weblio辞書		
デジタル大辞泉		

施行履歴

施行日	改版	主な内容
平成27年4月1日	第1版	帯広の森 森づくりガイドライン策定

帯広の森 森づくりガイドライン
 帯広市 都市建設部 みどりの課
 平成27年3月 発行
 〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
 [電話] 0155-65-4186 (係直通)
 [FAX] 0155-23-0159
 [メール] park@city.obihiro.hokkaido.jp